

# 中部日本ニュース

シネスコ版

表紙

道新 No. 18

高登別 167号 (本編トッパ追加)  
郵便工 167号  
お母さん 167号

## No. 435

代澤への土産 - 167号 船国 - 函館 134号 (本編 3月 2日 167号)

### 一、初夏

— 横浜・伊豆・岐阜

湯の町伊豆長岡のあやめ祭りは今年も五月十四日から三日間花やかに行われました。湯の町の夏祭りとあって抜け目のない地元は東京タワーであやめご前と頼政公をデートさせる等なかなかのPRぶり、そして当の地元では最大の行事とあって町は祭一色、きれいだころのおみこしや上州名物八木節をもちこんで初夏のいろどりをみせました。

一方、岐阜の長良川では十余年の伝統を秘める名物ウ飼い開きが十一日夜その幕を開きました。夏の夜の水上ショーとあってこの日の人出はざっと五万人、川面一ぱいに納涼シーズンの訪れをいどりました。

### 一、子どもとマンガ

— 東京

「マンガばかりみて困ります」というのがお母さんたちの声ですが、東京の根津小学校では、マンガの時間をもうけて、子供たちに好きなだけマンガを読ませることにしました。これというの、現代っ子のマンガ熱をなんとか勉強に結びつけようとした苦肉の策で、三、四時間教室に子供たちをカン詰にし、マンガが食傷状態を作るのがネライです。この後、マンガの批判会を開き、良いマンガ、悪いマンガを選びディスカッションをやります。いわば逆療法とでもいうべきこの方法は、相当の教育的効果をあげているようです。

### 一、出造りの山村

— 石川県白峰

いまだ深い雪に包まれた白山々脈の真只中で、雪どけから新雪のふるまでわずか半年の農業を営む人々があります。

これは出造りの農業と呼ばれ土地の少ない石川県白峰村の人々が毎年里から山へ移住し半年の生活を送るのです。

ここどとれるものはそば・ひえなど貧しい収穫物ばかり。しかしこれも祖先伝来続けられて来た自給自足の生活を今日にまでうけついでいるのです。秋になると住民たちは山を下り、きびしい冬將軍が去るまで谷間の里で半年間の長い冬籠りを続けます。

この貧しい山村には十軒もお寺が林立するかと思えば、また最も現代的な建築の粋を集めたモダンな円形校舎がそびえたつなどまことに不思議な部落です。

ここにはきびしい自然と斗いながら伝統に生きて来た秘境の山村の変わりゆく姿がうかがえるようです。

山口新聞 一二号  
新潟新聞 九八号  
高知新聞 一二号  
一名本編同い

340号

161号

140号